

## 第4回奈良市学校規模適正化検討委員会会議録

日 時 平成23年(2011年)2月24日(木) 13:30~15:00

場 所 春日野荘 畝傍の間

委員名簿 奈良市学校規模適正化検討委員会委員(19人)(敬称略、順不同)

会 長 重松 敬一 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
椋本 洋 (学識経験者・立命館大学教授)  
小柳 和喜雄 (学識経験者・奈良教育大学教授)  
横山 真貴子 (学識経験者・奈良教育大学准教授)  
山口 清和 (地域代表・奈良市自治連合会長)  
田中 幹夫 (弁護士・奈良市顧問弁護士)  
宮木 健一 (保護者代表・奈良市PTA連合会会長)  
岡田 美佳 (保護者代表・奈良市PTA連合会中高部会部長)  
香川 江里 (保護者代表・奈良市PTA連合会小学校部会部長)  
副会長 秦 俊彦 (学校代表・奈良市立学校園長会会長)  
黒田 八郎 (学校代表・奈良市立中学校長会会長)  
久保 賢一 (学校代表・奈良市立小学校長会会長)  
桐野 ゆみ (学校代表・奈良市立幼稚園長会会長)  
巽 一郎 (行政代表・企画部長)  
浦出 雅史 (行政代表・総務部長)  
片岡 隆弘 (行政代表・市民活動部長)  
奥田 千昭 (行政代表・保健福祉部理事)  
森井 弘 (行政代表・学校教育部長)  
荒木 恵子 (行政代表・教育総務部長)

出席者 委員 12名(欠席:椋本委員、香川委員、秦委員、黒田委員、  
浦出委員、片岡委員、巽委員)

事務局 10名(学校教育課長、学務課長、教育総務課長、  
教育企画課長、教育企画課職員6名)

傍聴者 市民 4名

議 事 1.開会  
2.議事

- (1)市立小・中学校を中心とする「中期計画」策定に向けて  
「前期計画」における市立小・中学校の現状について  
「中期計画」【素案】について
- (2)その他

### 3. 閉会

#### 開会

- ・事務局が、平成22年度第4回奈良市学校規模適正化検討委員会の開会を告げた。

#### 市立小・中学校を中心とする「中期計画」策定に向けて

- ・事務局より、パワーポイントによる説明を行う。

#### 会長

- ・適正化の前期計画における総括や現状報告、また「中期計画」について説明があった。
- ・過小規模が継続している学校を適正化の対象校とする。
- ・東部地域の1小学校1中学校への統合・再編の計画について、2小学校1中学校への統合・再編の計画として変更し検討する。
- ・柳生小学校は、過小規模で複式学級が発生している。しかし、諸般の事情から「中期計画」では統合・再編をせず、児童数の推移を見守るということである。
- ・前期計画を進める中で、子どもに対する教育の質の向上を念頭に置いた適正化施策について、その対象となる地域からは町づくりに対する意見が多かったと説明があった。
- ・大柳生小学校と相和小学校の交流について、確認したい。雪の日に行われた「合同授業」であったが、バス等の運行は問題なかったのか。夏は大丈夫と思うが、冬の雪については、心配がある。

#### 事務局

- ・この日の天気は雪であった。事務局から「合同授業」を見学するため、相和小学校へ赴いた。道路には雪が積もっている状況であった。
- ・その状況でも通学バスは、8時20分到着予定がほぼ定刻の19分に到着していた。タイヤチェーンを装着して運行しており、子どもたちが元気に降車してくるのを見て安心した。

#### 宮木委員

- ・大柳生小学校と相和小学校の統合・再編について、ここまで進んだのかという印象をもった。この統合・再編について、地域や保護者の方々はどのような思いをもたれたのか、分かる範囲で確認したい。
- ・通学バスの保護者負担について、どのように考えているのか。

#### 事務局

- ・今のところ、市役所の負担で考えている。
- ・大柳生小学校と相和小学校の統合・再編について、地域から学校が無くなるのは寂しい、小学校の統合・再編先を自分達の地域にして欲しいという意見があった。
- ・しかし、協議を重ねる中、子どもたちのこと、集団での教育の大切さを中心に考えて頂いた。まだまだ反対をされている方はいるかもしれないが、大柳生小学校の地域協議会において、統合・再編について合意を頂いた。

#### 会長

- ・この合意の後も交流や丁寧な説明を通じて、理解を求めていく必要がある。

## 小柳委員

- ・「合同授業」について、子どもたちの感想を知りたい。
- ・通学バスについて、一番早く出発する子どもたちは、7時50分ぐらいと説明があった。児童・生徒の住んでいる場所は、当然年によって変わると思う。この時間については、変わらないのか。それとももう少し早い時間になる可能性があるのか。

## 事務局

- ・子どもたちの感想について、今の段階でまだまとめていない。校長先生を通じて、確認したい。
- ・通学バスについて、現在は大平尾の児童が一番早い時間になり、現在は7時50分と予定している。年によって、停留所や時間が変わってくる可能性はある。
- ・通学バスの停留所は、当初5か所を予定していた。説明会で保護者から、出来る限り自宅に近い停留所の設置を求められた。しかし、停留所を多くすると、その分通学時間がかかり、最初の停留所を出発する時間がどんどん早くなる。
- ・現状で一番遠い大平尾の保護者から「7時45分ぐらいが限界である」という意見があった。これらのことを考慮し、7時50分発で6か所の停留所を経て8時20分到着というルートになった。

## 会長

- ・現状、大平尾から大柳生小学校まで、どのように通学しているのか。

## 事務局

- ・通学バスで大柳生小学校まで通学している。

## 会長

- ・東部地域の統合・再編の計画を変更し検討すると説明があった。現状の柳生小学校区の通学バスは、どうなっているのか。

## 事務局

- ・布目ダムの近くに北野山町があり、そこから柳生小学校まで通学バスが出ている。
- ・事務局でバスと同程度の速度で停車することなく時間を計ったところ、20分ぐらいかかった。途中の停留所で子どもを乗せることを考えると、30分ぐらいかかるであろう。
- ・同様に邑地町からのルートで停車することなく時間を計ったところ、15分ぐらいかかった。
- ・この状況から、1台の通学バスで柳生小学校区の児童を相和小学校へ移動させると仮定した場合、40分以上かかるであろう。

## 会長

- ・柳生地域における地域協議会の状況は、どうなっているのか。

## 事務局

- ・3月2日に柳生地区において協議会が開催される予定である。
- ・この協議会において、1小学校1中学校への統合・再編と計画していた東部地域の適正化施策について、2小学校1中学校への統合・再編に変更することの説明をしたい。

## 久保委員

- ・以前、柳生小学校で教頭をしていた。通学バスは、1便が朝2回運行し、始発は朝7時過ぎであった。子どもたちは、毎朝早くに大変であろう。さらに相和小学校まで通学すると、さらに大変になる。
- ・柳生中学校の生徒は、自転車通学をしている。勤務していた時期と比べて、現状生徒数が少ない。さらに減少していくと予想されている。
- ・人数が少なくなると、学校行事の運営に支障をきたす。例えば、集団球技活動など、人数が少なくなるとチームを作ることが困難になる。この現状について、よりよい教育環境のことを考えたとき、保護者はどのように感じるのかと考えてしまう。

## 桐野委員

- ・前回まで幼稚園の適正化を中心に検討していたが、検討部署が変更になる。そのため、これからは小学校・中学校の適正化施策についてもしっかり議論したい。

## 奥田委員

- ・都南中学校区の精華小学校で過小規模が継続しているが、地域協議会で理解を得られなかったと説明があった。地域や保護者の意見について、わかる範囲で教えてほしい。

## 事務局

- ・精華小学校区について、まず保護者説明会を開催した。その後、自治連合会に対して協議会の立ち上げを依頼し、半年程度経ってから協議会を開催した。この協議会開催までの間も社会福祉協議会の会合などで説明を行った。
- ・地域代表・保護者代表・学校代表の方々が参加した協議会において、計画案を協議した。しかし、地域振興やまちづくりの観点等から理解を得られなかった。子どもの数が少ない状況は分かっているが、地元から学校・園をなくして欲しくないという意見であった。
- ・また、人数が少なくきめ細かい指導が行われている、問題はないという保護者からの意見もあった。この協議会が開催された平成20年当時、精華幼稚園の園児数は5歳児3人であった。
- ・説明会の際には、地域や保護者から統合・再編はやむを得ないという声もあった。しかし、協議会において理解を得ることは出来なかった。そのため、事務局から小学校の統合・再編を一旦保留し、幼稚園の統合・再編を先行して行う案も提示したが、これについても同様の理由で理解を得ることは出来なかった。

## 森井委員

- ・小学校において、複式学級が発生している。中学校において、教科担任の人数を揃えられない。子どもたちの教育環境を考えた場合、このような状況にある過小規模校において、行き届いた教育を行うことが可能であるか疑問である。
- ・子どもたちは集団の中で育つ面が多分にある。そのため、中期計画のような適正化の施策を進めていく必要がある。
- ・しかし、地域から学校が無くなることは、地域のコミュニティの問題等が発生してくる。先ほどから精華小学校区の話が出ている。また、東部地域の小学校の統合・再編の進捗状況が報告された。この統合・再編を進めるにあたって、地域協議会などから提起される一番の課題は何であったのか。

## 事務局

- ・どの地域においても、子どもの数の減少についての問題意識はあった。子どもたちは、集団の中で学び育っていくことが望ましいと思われていた。
- ・しかし、統合・再編の場所になると、どこの地域も地元にしてほしいという意見になる。地元の学校・園が統合先になるのであれば、統合・再編について賛成であるという意見であった。
- ・子どもの声が聞こえなくなると寂しくなる、廃校になった後の校舎を見るのを想像すると辛いという意見もあった。こういう意見から、地元の方も辛い立場にあることが理解できた。

## 荒木委員

- ・東部地域の適正化施策について、事務局とともに協議会等に参加し、地元の方の意見を直接聞く機会が多くあった。子どもの教育環境を考えると統合・再編についてはやむを得ないが、統合先は地元の学校・園にしてほしいという意見が多かった。地元の方々もジレンマを抱えているということを強く感じた。
- ・しかし、教育委員会としては、まず子どもの教育環境を第一に考えた施策を進めていきたい。この施策を進める明確な答えを出すことはなかなか難しい。しかし、こまめに地元足を運び、地域の状況を確認し、じっくりと協議を繰り返すしかない。

## 岡田委員

- ・通学バスについて、確認したい。学年や曜日によって、児童が下校するタイミングは異なってくる。このことについて、配慮はされているのか。
- ・また、中期計画において、柳生小学校は通学時間等の配慮から推移を見守ると説明があった。しかし、児童数の減少がこのまま続いた場合、どうなるのか。地域の子どもの数が増えないことが想定されるため、認定校制度の導入などの施策を導入して、校区外から児童を集めるなど考えているのか。

## 事務局

- ・低学年と高学年の下校時間は異なる。そのため、下校の通学バスの時間は、2回に分けて設定することを考えている。
- ・柳生小学校について、中期計画では通学時間と通学距離を考慮し、子どもの数の推移を見守っていく。
- ・しかし、子どもの数が激減したような場合には、簡単に比較できる問題ではないが、通学時間と通学距離のデメリットと集団教育環境へのデメリットを比較して検討し、対策を講じたい。柳生小学校について、このまま適正化施策を取らないということではない。
- ・中期計画の期間でも、柳生地域へ足を運び、適正化施策について理解を得られるように調整を重ねていきたい。

## 宮木委員

- ・PTAの会議で子どもたちのコミュニケーション能力不足が話題になる。この能力は、人にもまれながら育っていく能力であり、少人数の環境ではなかなか得られるものではない。
- ・親として、子どもたちは大人数の環境で育てたい。しかし、統合・再編を進めるにあたっては、通学・通園の安全面への配慮は必要である。
- ・地域の親の立場に立つと難しいことは分かる。親として、教育環境を整えることを理解している。しかし、地域の協議会において、どうしてもその場の雰囲気を感じながらの発言になってしまう。その中でも親として、集団生活の大切さについて考えて行動してほしい。

## 会長

- ・柳生小学校について、新たな興東小学校との交流は何か検討しているのか。

## 事務局

- ・興東小学校と柳生小学校でこれから検討することになる。

## 小柳委員

- ・精華地域の協議会において、地域の方々と保護者の方々の意見は一致していたのか。

## 事務局

- ・協議会では反対という意見になったが、精華小学校の保護者にも、適正化を進めて欲しいという声はある。どのような計画でも全員が反対とか賛成とかいうことはない。
- ・協議会が終わった後、現在までに「どうして適正化施策を進捗させてくれないのか」という精華地域の保護者の方が2名来られた。
- ・その際に「ここまで小規模だと集団での教育が難しいではないか」「帯解小学校にはバンビホームがあるので、統合して欲しい」「地元の反対を受けて、進捗させないのはおかしい」などの意見を言われた。
- ・このような意見も踏まえながら、中期計画の期間も地元との調整を続けていきたい。

## 田中委員

- ・地域の小学校が無くなることに地元の方々がいろいろな思いをもたれるのは理解できるが、適正化施策を進めていく必要がある。
- ・東部地域の統合・再編について、教育委員会がいろいろな配慮をして、適正化施策を進捗させている。きめ細かに配慮し、かつ速やかに実施していることを評価したい。
- ・この東部地域の人口減少は、20年以上前からの奈良市の町づくり施策の失敗が原因になっている。思い切った人口政策を取るべきであった。
- ・幼稚園と保育所について、検討部署が変更になるということだが意見を述べたい。保育所は福祉、幼稚園は教育、それぞれ必要としている人が違う。このことにしっかりと配慮して考えてほしい。

## 山口委員

- ・精華小学校と帯解小学校の統合・再編について、確認したい。精華小学校区の方から、統合・再編して帯解小学校になるのでは、対等な立場での統合・再編ではない、吸収合併ではないかという疑問が出ている。
- ・東部地域について、大柳生小学校と相和小学校の統合・再編が行われる。柳生小学校は、通学距離・時間等の配慮から推移を見守るということは理解できた。
- ・柳生中学校と興東中学校について、現在の大柳生小学校の場所に新しい中学校として統合・再編する計画と理解していいのか。
- ・都祁地域について、もう一度説明をお願いしたい。

## 事務局

- ・精華小学校と帯解小学校の統合・再編については、吸収合併ではない。今回の東部地域の統合・再編と同様にいわゆる対等合併である。東部地域の統合後の学校名についても、両地域の思いや願いも受け止めて教育委員会が「興東小学校」と決めた。

- ・精華小学校と帯解小学校の統合・再編についても、同様に協議して決定する。また学校指定用品なども、実施方針にも「新たな保護者負担が生じないように努めます」と明記されており、そのまま使えるように配慮する。
- ・柳生中学校と興東中学校の統合・再編については、言われる通りの計画である。現在の大柳生小学校の校舎を中学校仕様に改築して、新しい中学校として利用する。

### 山口委員

- ・東部地域の中学校において、全学年参加しないと集団球技活動もままならない現状と聞いている。この柳生中学校と興東中学校の統合・再編の計画について、評価したい。

### 事務局

- ・都祁地域について、どの小学校を統合・再編するかなど具体的な検討はしていない。このまま児童数の減少が続くようであれば、具体的な検討をする必要がある。児童数の推移から想像すると、中期計画の期間中に地元へ説明する必要があるかもしれない。

### 横山委員

- ・統合・再編を伴う適正化施策について、子どものことを中心に据えた施策であって欲しい。子どもたち自身が「少し遠くなったけど、学校に行くのは楽しい、行きたい」と感じるような施策であって欲しい。
- ・今までの説明から、このことをしっかりと考えてくれているように感じる。
- ・さらに施策を進捗させるには、統合・再編が進むとどのようないい面があるのか、どのような新しい面があるのか、これらのことを具体的に示していく必要がある。無くなるという面だけでなく、一緒になることで新しく何が出来るようになるかを示していく必要がある。

### 会長

- ・保護者にとっては、統合・再編が進むと何がよくなるのか、そのことが見えてこないという心配がある。今まで進めてきた適正化施策についても、進捗してきた中でいろいろ反省する面もあった。
- ・今日の検討委員会も含め、今までの検討委員会において委員の方々からいろいろな意見を頂いた。これらの意見を反映した中期計画を策定して欲しい。

### 事務局

- ・検討委員会が終了後、何か気付かれた点があれば、随時連絡して欲しい。
- ・幼稚園について検討部署が変更となるので、いままで検討委員会で頂いた意見について、しっかりと引き継ぎをしていきたい。
- ・小学校・中学校を対象とした中期計画【素案】は、必要な手続きを経て、検討委員会委員・学校関係者の方々に報告したい。この手続きの過程で必要が生じた場合、検討委員会委員の方に作業部会への参加をお願いするかもしれない。
- ・今年度の検討委員会は、今回で終了したい。ありがとうございました。